

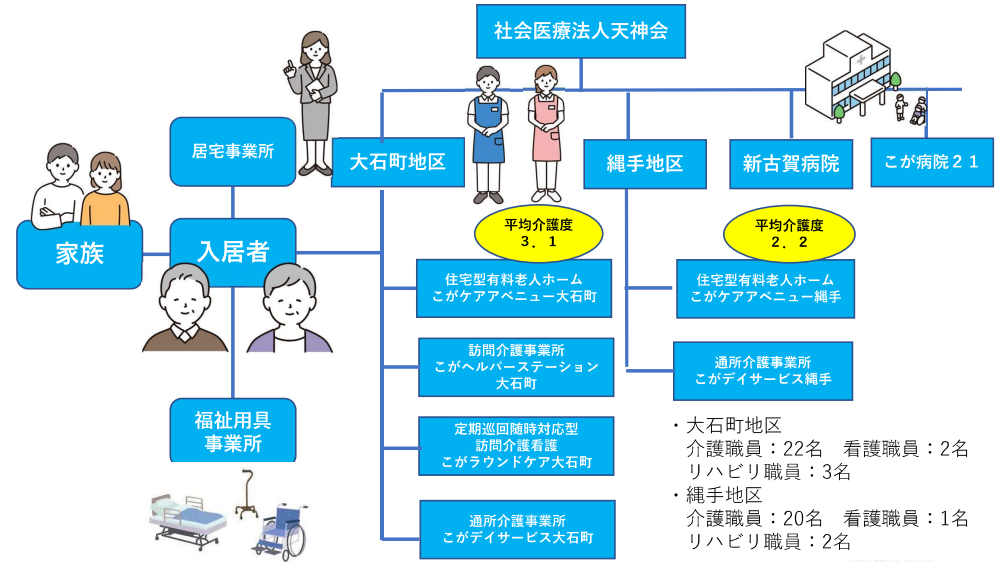
在宅におけるノーリフティングケアへの取り組み ～住宅型有料老人ホームからのアプローチ～



社会医療法人天神会 複合施設

- こがケアアベニュー大石町
- こがケアアベニュー縄手
- こがラウンドケア大石町
- こがヘルパーステーション大石町
- こがデイサービス大石町
- こがデイサービス縄手

1. 入居者様に関わる関連図

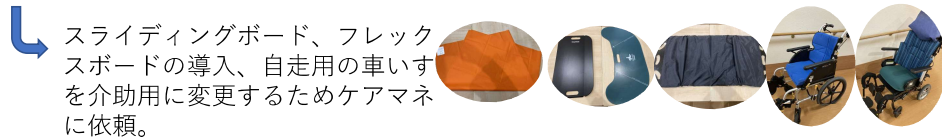


2. ノーリフティングケア推進事業を取り組む前は

職員からの聞き取り調査の結果、指導方法が人によって違う等の意見があり、腰痛の訴えも多かった。その結果、令和4年度の事業目標を

- ①ショートムービーマニュアルの作成と活用
- ②ノーリフティングケアの推進

と決定して周知した。



スライディングボード、フレックスボードの導入、自走用の車いすを介助用に変更するためケアマネに依頼。

問題点

- ・動画マニュアルの進捗が進まない
- ・スライディングボードを活用している職員が少ない。
- ・高額な福祉用具を購入しても使用しない可能性が高いのでは？
- ・費用対効果は？



3. 組織体制（委員会メンバー）



両施設の協力体制

施設は2つだが、2つで1つのような状態
2つの施設間での職員配置を変えてきたので情報共有はスムーズに行える。

4. 職員への教育体制

2つの施設でどのように研修をしたらよいか？

大石町地区と縄手地区で同じ研修内容の全体研修を行い、**どちらかの地区**に参加。

シフトの都合上、全体研修に参加できなかった職員は委員会メンバーが個別研修を実施した。

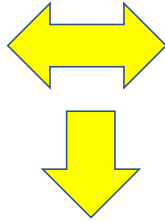


全体研修



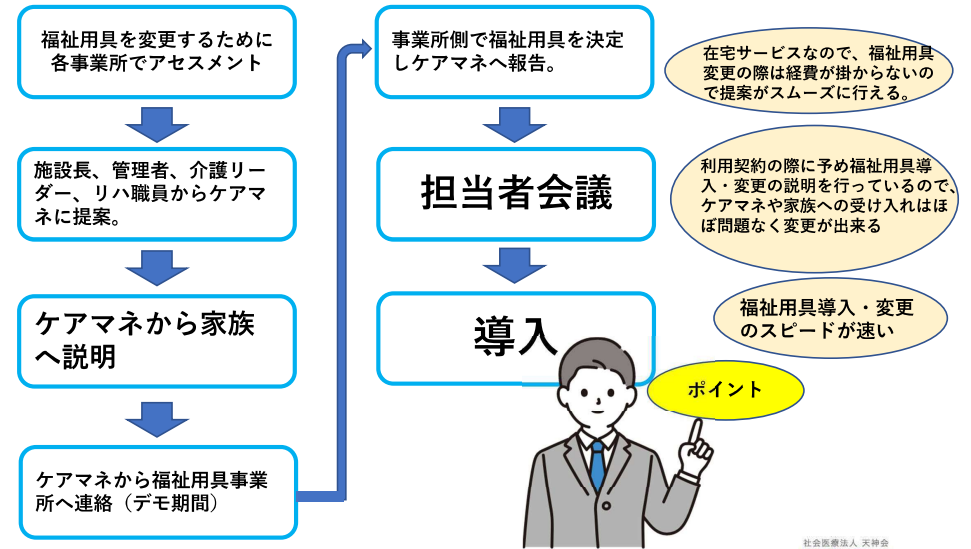
個別対応

姿勢を整える



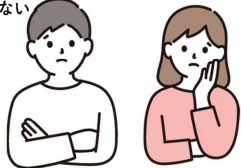
研修の出席の確認。全体研修に参加できなかった職員へは委員会メンバーが声掛けして個別研修を実施。その結果、研修への**参加率はほぼ100%**となった。

5. アセスメント及びプランニング（福祉用具の変更）



6. 移乗方法の統一と、指導方法の統一

先輩によって教え方が違う・・・入居者様の移乗福祉用具がわからない



大石町地区

対象者 36名

対象者の選出

縄手地区
対象者 24名

簡易移乗チェックシート

アセスメント

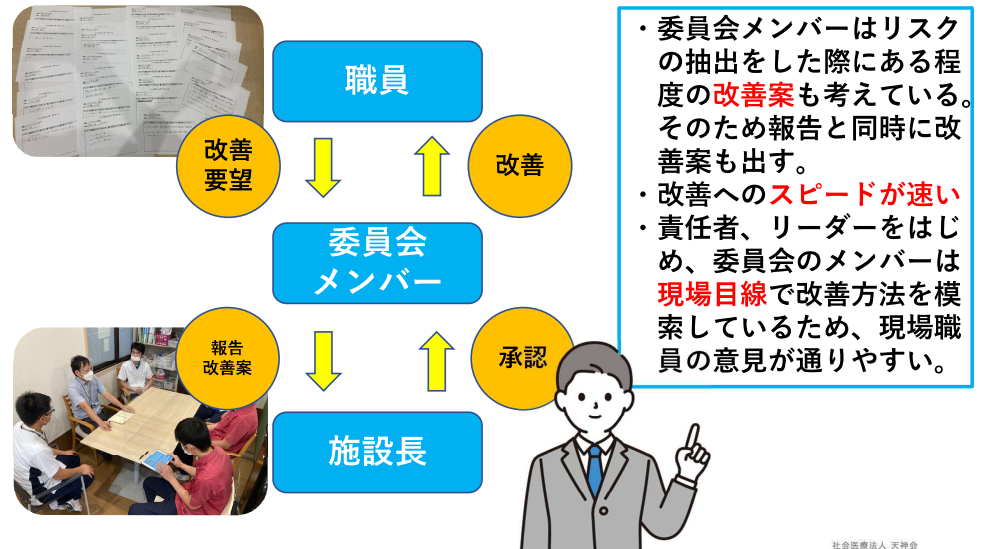
項目	評価	担当者
1. 移乗方法の統一		
2. 指導方法の統一		
3. 動画マニュアルの作成		
4. 現場での実践		
5. 定期的な見直し		

動画マニュアルの作成



移乗方法の統一と指導方法の統一を図るため**動画マニュアル**を作成した。

7. リスクの抽出から改善への流れ



8. 問題点へのアプローチ

委員会でのミーティングを定期開催（月2回）し、職員からのリスクの抽出及び現在の取り組みの問題点を協議した。

問題点

- これまで研修で行ってきた身体の動かし方が身につけていない。
- 委員会のメンバーだけではノーリフティングケアの周知が不十分。



解決策

- 腰に負担がかかる動作及びその改善できる身体の動かし方を動画を各事業所にて常にモニターにてリピート再生。
- 協力メンバーを選出し、スライディングボード等の使用の声掛け、身体の動かし方の周知、職員からの改善の抽出を行ってもらう。



9. 福祉用具の導入

取組前

スライディングボード2種：5個
スライディングシート：2枚

取組後

スライディングボード3種：9個
スライディングシート：6枚
スタンディングリフト：1台

- スライディングボード
タイヤに干渉しにくく差し込みやすい「つばさ」を導入



- スタンディングリフト
デモを導入し約3名が対象となったため導入を決定。



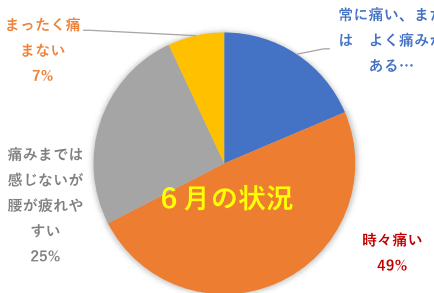
- 今後の導入検討
デイ浴室の構造上、天井走行リフト等が設置できないため引き続き福祉用具を検討



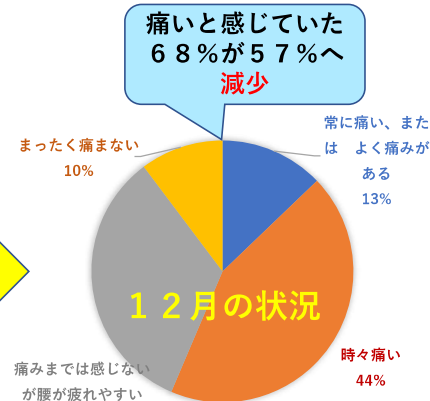
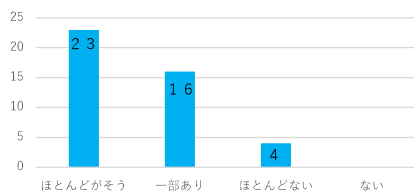
スライディングボードだけの移乗では限界があるためリフトを導入検討中

購入ではなく、まずはレンタルから段階的に導入。職員への浸透が出来れば購入へ。

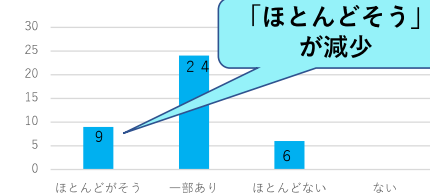
10. 腰痛調査



日常業務において、持ち上げや抱え上げ等の介助はあるか。



日常業務において、持ち上げや抱え上げ等の介助はあるか。

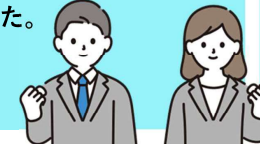


「ほとんどそう」が減少

11. まとめ及び今後の課題

まとめ

- 予め令和4年度の事業目標をノーリフティングケアと設定していたこともあり、職員の関心も高く周知は達成できた。
- 動画マニュアルにより、入居者様の移乗の際の福祉用具の統一、及び介助方法の統一の土台作りが出来た。
- 研修方法を全体研修と個別研修を行うことで、研修の参加率がほぼ100%とすることが出来た。



今後の課題及び目標

- 職員へのノーリフティングケアへの理解確認→定期的なチェック
- 新入職員への教育計画の確立
- 法人内の介護施設だけでなく、看護部、リハビリ課への普及。
- 在宅におけるノーリフティングは、職員だけでなく、ケアマネを通して、自宅で介護をしている家族に対しても必要。まずは法人内の居宅事業所への普及を進める。